

生活

✉ seikatsu@asahi.com

2012年(平成24年)
12月6日
木曜日



天気 6 9 12 15 18 21(時)

福岡	☁	☁	☁	☁	☁	☁	20	8
北九州	☁	☁	☁	☁	☁	☁	20	7
山口	☁	☁	☁	☁	☁	☁	10	7
大分	☁	☁	☁	☁	☁	☁	0	-2
佐賀	☁	☁	☁	☁	☁	☁	10	2
鹿児島	☁	☁	☁	☁	☁	☁	10	8
那覇	☁	☁	☁	☁	☁	☁	0	1
大阪	☁	☁	☁	☁	☁	☁	0	11
東京	☁	☁	☁	☁	☁	☁	0	4

朝日新聞西部本社 発行所:〒803-8586 北九州市小倉北区室町1-1-1
電話:093-563-1131 www.asahi.com
福岡本部 〒812-8511 福岡市博多区博多駅前2-1-1 電話:092-411-1131

患者を生きる

2056

免疫と病気

福岡県の歯科医、山口修さん(55)は2001年秋、のどに痛みを感じた。近くの耳鼻咽喉科で内視鏡検査を受けると、粘膜が白くただれていた。ステロイドをのむとおさまったが、1カ月後にまた痛み出し、再びステロイド治療を受けた。

翌年春、今度は頭の皮膚がただれた。「ノミか、ダニに刺されたか」と思い、近くの皮膚科診療所に診てもらった。しかし、原因はわからない。ちょうど髪を染めたばかりで「毛染めに(皮膚が)負けたんかねえ」といわれた。かさぶたが髪の毛にからむため、丹念にシャンプーをして、清潔を保つようにした。ところが、頭皮のただれはかえって広がった。やがて、鼻の皮膚が破れて赤くなり、背中や胸にも水ぶくれが出始めた。皮膚科の医師は「自分は患者をみたことがないが、天疱瘡かもしれない」といい、専門医として久留米大病院(福岡県久留米市)皮膚科の橋本隆教授(61)を紹介された。

全身痛む「宙に浮きたい」

4月末、症状を見た橋本さんはすぐに天疱瘡だと確信。背中

天疱瘡③
の皮膚の組織検査をすると表皮の内部が壊れており、天疱瘡の特徴がはっきり見えた。血液などからも、自分の皮膚や粘膜を攻撃してしまう「抗体」が見つかった。5月の連休明け、「尋常性天疱瘡」と正式に診断された。



本やインターネットで天疱瘡の情報を集めた

法など、症状や苦痛を軽くする治療法があるという。

橋本さんから「せひ、入院して治療を」と勧められた。ただ、入院すれば自分の歯科医院を休診することになり、大勢の患者に迷惑がかかる。「敵を知らない」と闘病できない。最新の医学書を読み、インターネットで海外の情報も集めた。その結果、通院しながら治療を受けることを決心した。とはいえ症状は酷しい。まるで全身にやけどを負ったよう、どんな姿勢でも痛い。まともな睡眠が取れなかった。

「無重力で宙に浮いたまま寝られたら」。宇宙飛行士がうらやましかった。

■ご意見・体験は、<メール> iryo-k@asahi.comへ。

医療サイト・アビタルで、3カ月分のバックナンバーが見られます。

アビタル 検索